

1 向町地区環境保全会

向町地区環境保全会 (鹿児島県熊毛郡中種子町)

- 中種子町は、鹿児島市から南へ約119kmの洋上にある種子島中央部に位置し、南北22km、東西7kmであります。地勢は一般に穏やかな丘陵地で北部に山林地帯が多く、中央から南部にかけて比較的平坦な耕地が多い。町内の総面積は13,778haで、水田329ha、畑2,095ha、樹園地36haの合計2,603haの耕地面積であり、平均気温19.5℃の温暖な気候を利用し、さとうきび、甘しょ、水稻を中心とした農業が展開されている。
- 当保全会は中種子町の東部に位置し、農業者の高齢化、また地域住民の減少により、地域営農や保全活動の存続が厳しい中、多面的機能支払交付金事業に取り組み、組織と地域が一体となり耕作放棄地や遊休農地が拡がらないよう保全活動に取り組んでいる。

1

【地区概要】

- ・取組面積 : 48.1ha
(田6.7ha・畑41.4ha)
- ・資源量 : 水路 4.3km 農道 12.3km
- ・主な構成員 : 自治会、農業者、育成会
青壮年会、婦人会、老人会
- ・交付金 : 約160万円(R2)
農地維持支払 103万円
資源向上支払 57万円(共同)

活動開始前の状況や課題

- 耕作者の高齢化、地域住民及び就農者の減少に伴い、農用地の管理が難しくなり、荒廃農地・遊休農地になりうる農地が増加してきた。
- 環境保全に対する意識が薄く、活動回数及び参加者が少ない状況だった。
- 農業者の減少により農道・水路等の保全管理に対して1農家あたりの負担が増加。

【点検・機能診断】 【保全管理作業】



取組内容

- 農地・水・環境保全向上対策事業(H19～H25)、多面的機能支払交付金事業(H26～)に取り組んでいる。
(主な取り組み活動)
 - ・農地、水路、道路の点検、機能診断
 - ・農地の遊休農地発生防止作業
 - ・草刈り、泥上げ等の保全管理作業
 - ・経年劣化等で破損した水路・道路の補修作業
 - ・アジサイ植栽場所の管理やチューリップ等の植栽による景観形成活動
 - ・大型農業用機械による危険箇所の高枝や竹藪等の伐採
 - ・異常気象後の見回り・片付け等の対応

【進入路の補修作業】 【台風通過後の対応】



取組の効果

- 農地・水・環境保全向上対策事業の導入により、少しずつ地域住民も活動に参加するようになり、地域の環境保全に対する認識も得られ、それが多面的機能支払交付金事業にも引き継がれている。
- 保全会活動が地域に浸透した事で、草刈り作業等に、農家だけでなく農家以外の参加も得られ農家の負担が軽減された。
- 環境保全活動であるアジサイやチューリップの植栽を育成会・婦人会が協力することで、非農業者も活動に参加し、地域が一体となった。

育成会・婦人会の植栽





側溝の清掃作業



水路周辺の草刈り



大雨で崩れた農地の復旧作業



農道陥没箇所の補修作業

きっかけ

地域住民を中心とした持続可能な地域資源の適切な保全管理が必要



アジサイ植栽地への看板設置 (啓発・普及)

将来に向けて

- 高齢化・過疎化は、今後も進行していくので、今後は、周辺の集落と協力したり、入り作農家を積極的に受け入れ、保全管理の質が下がらないようにする。
- 農地の集積や、農道・水路の補修等の作業を行い、農家が営農しやすい環境作りに努め、遊休農地の発生防止に努める。

今後の展望

Step1 (S43~S53)

向町地区環境保全会 結成前

- 県営圃場整備事業により農地、農道、用排水路が整備された。整備後も管理作業を行ってきたが、高齢化や過疎化により、農業者数の減少による、作業効率の低下が目立ち始める。



農地の耕耘作業 (遊休農地発生防止活動)

Step2 (H19~H25)

向町地区環境保全会 結成

- 地域の保全管理状況の改善を目的に、向町地区環境保全会を結成。
- 農地・水・環境保全向上対策事業を利用して、地域住民に保全会の事を知ってもらいながら、保全管理を実施していく。



大雨後の現場確認及び泥上げ

Step3 (H26~H30)

多面的機能支払交付金事業による更なる環境保全

- 新たに多面的増進の活動に取り組み、施設の補修、農地周りの竹藪や高枝の伐採等に力を入れて、更なる保全管理を展開していく。
- 農村環境活動の植栽では、地域の美化に加え、非農家も活動に参加し、地域住民との共同活動に寄与している。

Step5 (R1~)

更新後の保全会

- 作成した「地域資源保全管理構想」に基づいて、活動を実施し、農業者と非農家等の地域住民が協力しながら地域の保全管理に努めている。

Step5 (H30)

活動の更新

- H30年度までが、事業期間だったので、保全会の更新について、地域住民で協議し、更新が決まった。
- 地域にとって保全会は、なくてはならないとの意見が多く、地域に必要とされる存在になったと改めて認識した。